

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第142集

# 枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ

長野県佐久市岩村田上直路遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2007.3

上 田 昭  
佐久市教育委員会

## 例言

- 1 本書は上田 昭による集合住宅建設事業に伴う枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市長土呂 207 番地 1  
上田 昭
- 3 調査主体者 佐久市中込 3056  
佐久市教育委員会  
教育長 三石 昌彦
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地  
枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ (IBK Ⅱ)  
佐久市岩村田 1077-8, 1077-15
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。  
H - 竪穴住居址
- 2 スクリーントーンは以下の通りである。

遺構

地山断面  掘方 

遺物 赤色塗彩 

- 1 挿図の縮尺は以下の通りである。  
遺構 - 竪穴住居址 1/80  
遺物 - 土器 1/4
- 2 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 3 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
- 4 調査グリッドは小グリッド 4 × 4 m、大グリッド 40 × 40 m である。

## 目次

例言・凡例・目次

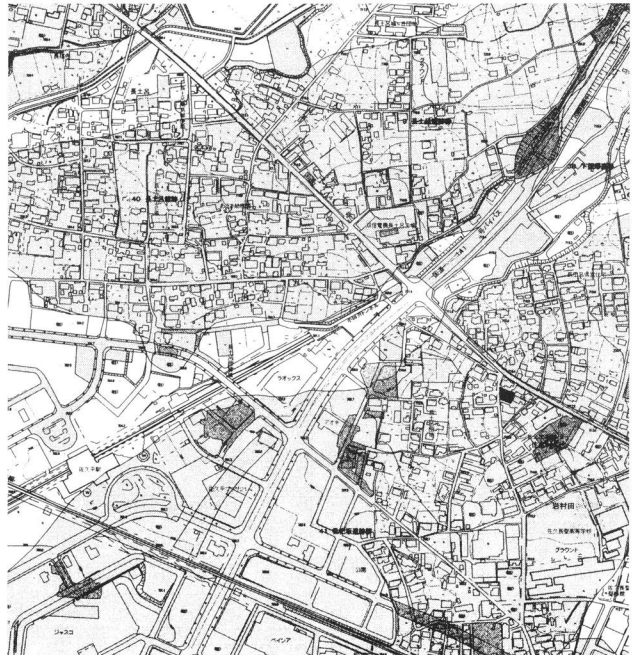
- 第Ⅰ章 発掘調査の経緯…………… 1
1. 立地と経過…………… 1
  2. 調査体制…………… 1
  3. 遺構と遺物の詳細…………… 1
  4. 基本層序…………… 2
- 第Ⅱ章 遺構と遺物…………… 2
1. H 1 号住居址…………… 2
  2. 混入遺物…………… 3

写真図版

抄 録



調査区位置図 (1:100,000)



調査区位置図 (1:10,000)

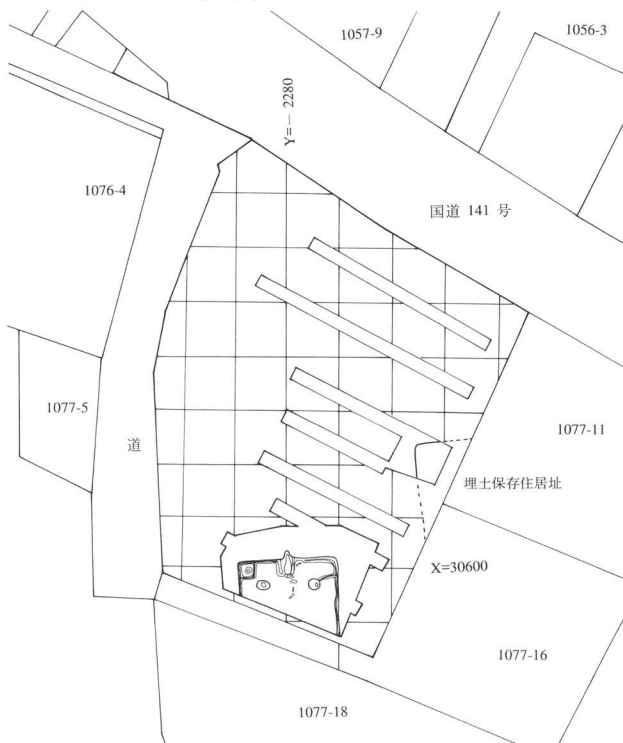
# 第 I 章 発掘調査の経緯

## 1. 立地と経過

枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅱは佐久市岩村田市街地北西の浅間の麓から放射状に延びる田切り地形の台地南端付近に位置し、現況は南西方向に向かって緩やかに傾斜する。標高は715 m内外を測る。

周辺地域には多くの遺跡が所在し、弥生時代から平安時代を主とする遺構が多数発見されている。代表的なものとしては、対象地東方にて弥生時代後期の住居址2軒、古墳時代の住居址3軒を調査した上直路遺跡をあげることができる。このうち弥生時代の住居内には、住居廃絶時に埋葬されたと思われる屋内埋葬墓が存在し、両腕に併せて14点以上の帯状円環形銅剣をはめた人骨が発見され注目された。これまで佐久市内の調査によって、弥生時代の青銅又は鉄製剣を出土した遺跡は銅剣が上直路遺跡1号住居址屋内埋葬墓、五里田遺跡2号円形周溝墓、北一本柳遺跡1号住居址・1号土坑墓、円正坊遺跡Ⅴ1号住居址、清水田遺跡Ⅱ2号住居址、鉄剣が上直路遺跡2号住居址、五里田遺跡5号住居址、後家山遺跡1号木棺墓など数多く認められる。このことから、佐久地域において金属製剣は身分を示す上で重要な装身具の一つであった可能性も考えられる。

今回、集合住宅建設事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。結果、住居址2軒が認められたことから、開発主体者と協議を重ね、開発に際して遺構の破壊が予測される住居址1軒について記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施する運びとなった。



## 2. 調査体制

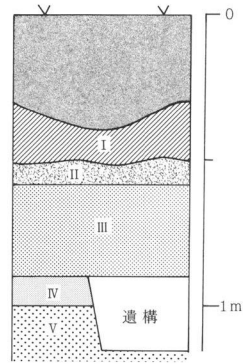
調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	三石昌彦		
事務局	社会教育部長	柳沢 義春		文化財課長	中山 悟
	文化財保護係長	高村 博文		文化財調査係長	高柳 正人
	文化財保護係	荻原 留美	高橋 浩一		
	文化財調査係	林 幸彦	須藤 隆司	小林 眞寿	羽毛田卓也
		富沢 一明	神津 格	上原 学	出澤 力
調査主任	佐々木宗昭	森泉 かよ子		調査副主任	堺 益子
調査担当者	上原 学				
調査員	甘利 隆雄	菊池 喜重	清水 信一	武者 幸彦	

## 3. 遺構と遺物の詳細

遺 構	竪穴住居址	1 軒	古墳時代中期～後期		
遺 物	土師器 (鉢・甕)	弥生土器 (壺・甕・高坏)	石製品 (すり・敲き石)	石器 (石鏃)	

#### 4. 基本層序

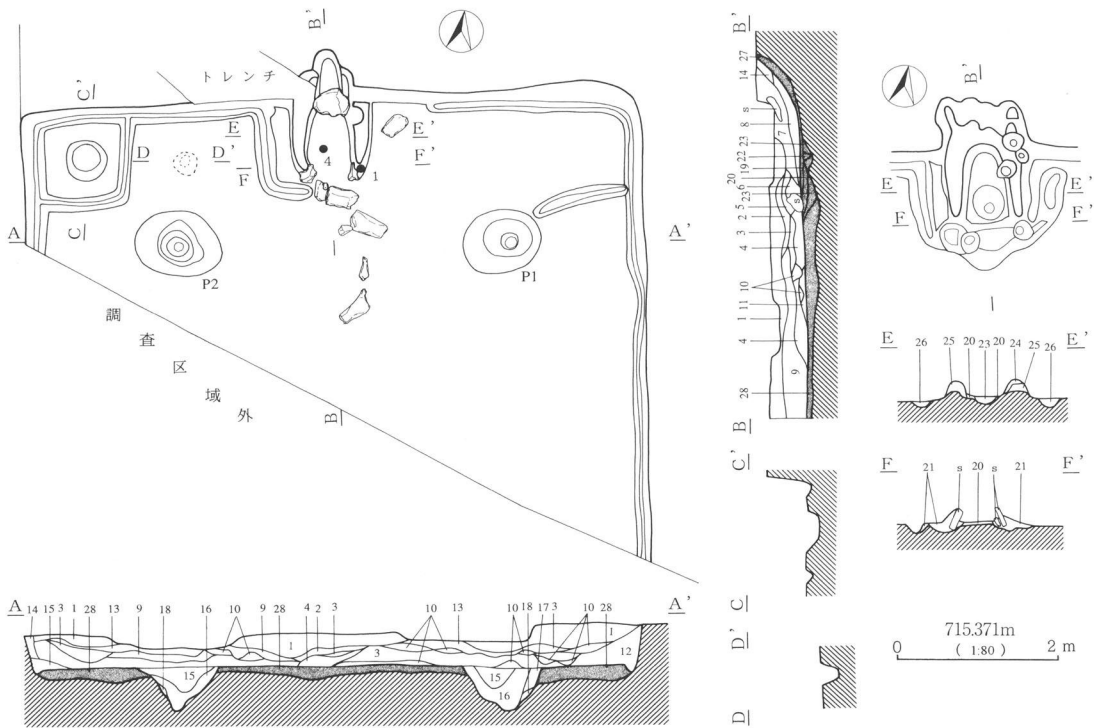
佐久市北部の台地上は、現在の浅間山が形成される以前 2,800 m を超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在の浅間山の中心を成す前掛山に成長する際、降下火山灰及び軽石流が大きく2度に渡り堆積した。(下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2) その厚さは地域によっては20 m を超え、この堆積した黄褐色土を表土である黒褐色土が覆っている。更に遺跡内は以前水害にあったため表土直下に砂層が認められた。層序は上層から宅地造成時の埋土、褐灰色砂層、旧地表の黒褐色土、暗褐色土、黄褐色のローム土である。試掘調査での遺構確認は黄褐色ローム土上面で行ったが、本調査時にはローム上層の暗褐色土上面にて遺構の確認が可能であった。



基本層序模式図

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

### 1. H1号住居址



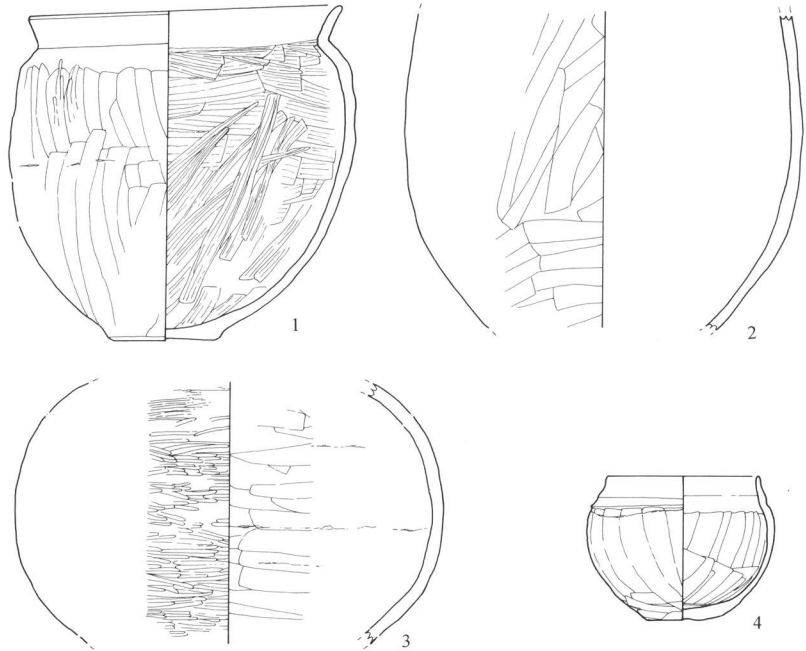
1. 暗褐色土(10YR3/3)軽石、 $\rho$ - $\Delta$ 粒。
2. 黒褐色土(10YR3/2)軽石、 $\rho$ - $\Delta$ 粒。
3. 暗褐色土(10YR3/4) $\rho$ - $\Delta$ 粒多量。軽石。
4. 暗褐色土(10YR3/3)軽石、 $\rho$ - $\Delta$ 粒多量。
5. 灰褐色土(7.5YR4/2) $\rho$ - $\Delta$ 粒、軽石、粘土粒。
6. 褐灰色土(7.5YR4/1)粘土主体。焼土含む。
7. 暗赤褐色土(5YR3/2)炭化物、軽石、焼土、粘土粒。
8. 極暗赤褐色土(5YR2/3)焼土、粘土粒多く、炭化物含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) $\rho$ - $\Delta$ 粒、軽石多い。
10. 黒褐色土(10YR2/2)粒子細かい。 $\rho$ - $\Delta$ 粒、軽石少量。
11. 暗褐色土(10YR3/4) $\rho$ - $\Delta$ 粒やや多い。しまりあり。
12. 暗褐色土(10YR3/4) $\rho$ - $\Delta$ 粒、軽石多量。しまりなし。
13. 鈍い黄褐色土(10YR4/3) $\rho$ - $\Delta$ 多量。軽石やや多い。
14. 極暗赤褐色土(5YR2/3)焼土粒少量。
15. 黒褐色土(10YR2/2) $\rho$ - $\Delta$ 粒、軽石少量。
16. 褐色土(10YR4/4) $\rho$ - $\Delta$ 粒、軽石多量。
17. 暗褐色土(10YR3/3) $\rho$ - $\Delta$ 、黒色土の混合土。
18. 黒褐色土(10YR2/3) $\rho$ - $\Delta$ 粒少量。
19. 黒褐色土(10YR2/3)灰層。炭化物、焼土含む。
20. 極暗褐色土(7.5YR2/3)焼土、炭化物多い。
21. 黒褐色土(10YR2/3) $\rho$ - $\Delta$ 粒。しまりややあり。
22. 黒褐色土(5YR2/2)炭化物、焼土。
23. 黒褐色土(7.5YR2/2) $\rho$ - $\Delta$ 、炭化物、焼土。
24. 黒褐色土(7.5YR3/2)焼土、軽石。
25. 鈍い黄褐色土(10YR4/3) $\rho$ - $\Delta$ 主体。軽石。
26. 暗褐色土(7.5YR3/3)軽石、 $\rho$ - $\Delta$ 粒。
27. 暗褐色土(10YR3/4) $\rho$ - $\Delta$ 多い。黒色土含む。
28. 黒褐色土(10YR2/3)黒色 $\rho$ - $\Delta$ 混合土。しまりあり。(掘方)

H1号住居址実測図

遺構は対象地の南端に位置し、南西コーナー付近は調査区域外となる。規模は東西 7.6 m、南北は確認規模の最大で 6.2 m、確認面から床面までの深さは最深で 54cm を測る。平面形態は方形又は長方形と思われる。遺構は住居廃絶後に一帯が水害に見舞われたためか遺構上面は砂層に覆われていた。少なくとも古墳時代以降、周辺地域に砂を堆積させるような状況があったものと思われる。床面は堅く土間状を呈し、壁際に幅 18cm、深さ 10cm 程度の周溝が巡らされていた。支柱穴は円形のピットが 2 個確認できた。いずれも掘り込みは最大径 90cm 以上と大型で底部に柱痕らしき円形の窪みが存在する。また北西コーナーには方形に区画した幅 15cm 程度の溝が存在し、区画された中央には径 50cm、深さ 15cm と窪み状の土坑が掘り込まれていた。さらに東壁から P 1 に延びる幅 15cm 程度の溝が認められたことから、住居内に間仕切り状の施設があった可能性を伺い知ることができた。カマドは北壁中央付近に構築され、破壊が著しいが、地山作り出しの長い両袖及び焚き口部の石材、煙道部立ち上がり付近の天井石及びカマド前部に焚き口部天井石らしき石材が横たわっていた。

さらに床面一帯にカマドの構築に使用されたとされる焼けた扁平な石材が散乱していた。カマドの袖に囲まれた火床部には灰、焼土が認められ、中央付近に完形の土師器鉢が残されていた。

遺物は土師器の鉢、甕、すり・敲き石が出土したが、住居の規模からすると出土量は少ない。また覆土内には流れ込みと思われる赤色塗彩を施した弥生時代後期の土器が多数含まれていた。本住居址の出土遺物は少ないが、特徴から古墳時代、5 世紀後葉から 6 世紀代としたい。

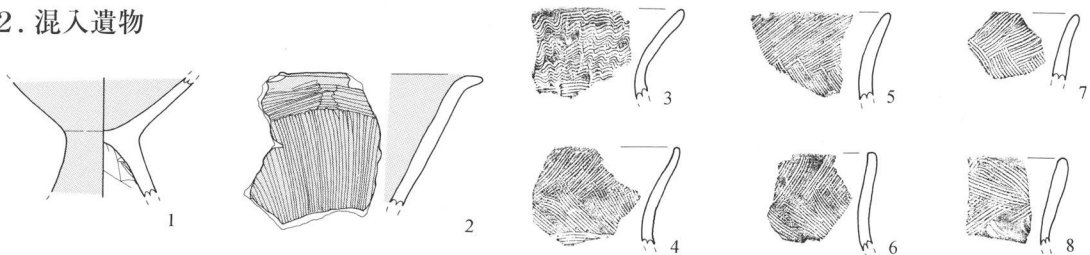


H 1 号住居址遺物実測図

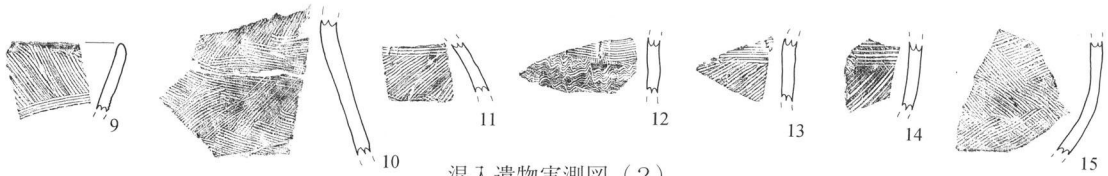
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	19.3	6.9	20.9	口縁横ナデ 外面縦ヘラケズリ 後ミガキ 内面ハケナデ 底部ヘラケズリ	80	5YR5/4 鈍い赤褐色
2	土師器	甕	-	-	-	外面縦・横ヘラケズリ・ヘラナデ 内面ヘラナデ	胴部破片	5YR5/4 鈍い赤褐色
3	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラケズリ 後横ミガキ 内面横ヘラナデ 輪積み痕	胴部破片	5YR5/8 明赤褐色
4	土師器	鉢	9.6	4.6	8.9	口縁内外面横ナデ 外面胴部縦・底部周辺横ヘラケズリ 内面縦ヘラナデ	100	カマド出土 5YR5/3 鈍い赤褐色
5	すり・敲き石	重量 198.9 g、厚さ 3.1 cm、幅 5.3 cm、残存長 5.1 cm、先端敲き痕、4 面すり痕	写真参照					

H 1 号住居址遺物観察表

## 2. 混入遺物



混入遺物実測図 (1)



混入遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	部位	備考	番号	器種	器形	部位	備考
1	弥生土器	高坏	坏・脚部	坏部内外面・脚部外面赤色塗彩 ミガキ	9	弥生土器	甕	口縁	外面口辺飾描斜線文・頸部飾描横線文
2	弥生土器	高坏	坏部口縁	内外面赤色塗彩 内面・口縁横ミガキ 外面縦ミガキ	10	弥生土器	甕	胴部	外面飾描羽状文
3	弥生土器	甕	口縁	外面飾描波状文・頸部飾描簾状文	11	弥生土器	甕	頸部	外面頸部飾描簾状文・胴部飾描斜線文
4	弥生土器	甕	口縁	外面飾描羽状文・頸部飾描簾状文	12	弥生土器	甕	頸部	外面頸部飾描簾状文・胴部飾描波状文
5	弥生土器	甕	口縁	外面飾描羽状文	13	弥生土器	甕	頸部	外面頸部飾描簾状文・胴部飾描斜線文
6	弥生土器	甕	口縁	外面飾描羽状文	14	弥生土器	甕	頸部	外面頸部飾描簾状文・胴部飾描斜線文
7	弥生土器	甕	口縁	外面飾描羽状文	15	弥生土器	甕	胴部	外面飾描羽状文
8	弥生土器	甕	口縁	外面飾描羽状文	16	石器	石鏃	黒曜石製 残存長 2.15cm 最大幅 1.15 厚さ 3.4cm、基部欠損 写真参照	

混入遺物観察表



H 1 号住居址確認状況 (東から)



H 1 号住居址全景 (東から)



H 1 号住居址北西コーナー (東から)



H 1 号住居址カマド (南から)



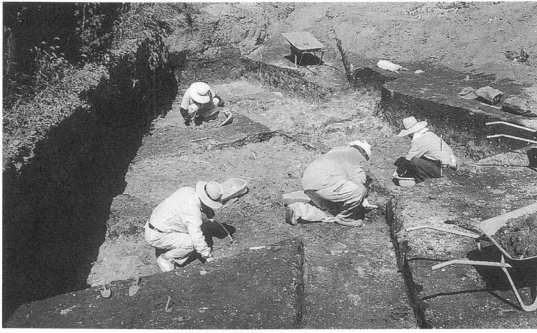
H 1 号住居址カマド遺物出土状況



H 1 号住居址カマド (南から)



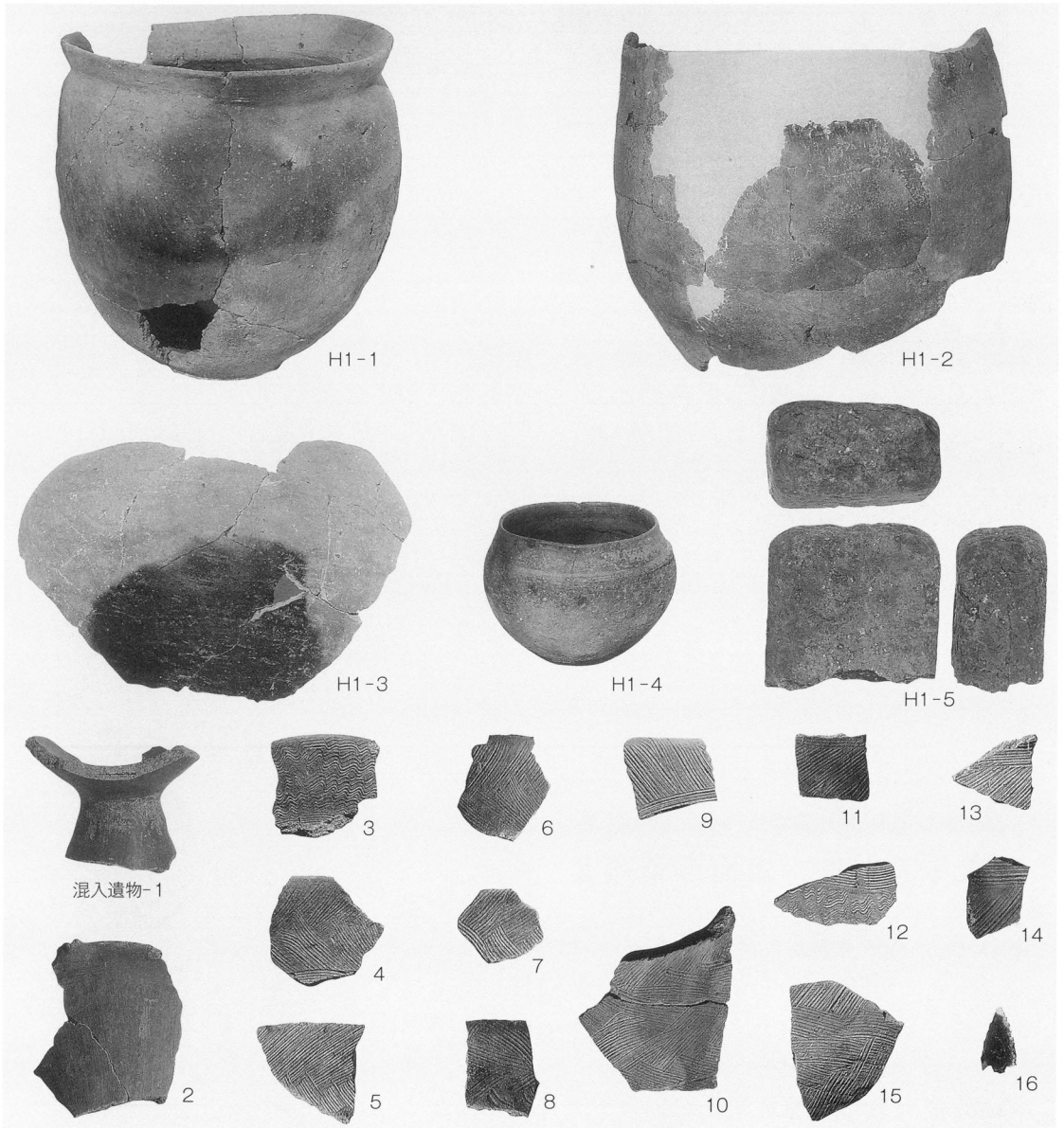
H 1 号住居址主柱穴



調査風景（東から）



H 1 号住居址掘方（東から）



出土遺物

## 報告書抄録

書名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ
ふりがな	びわざかいせきぐん かみすぐじいせきに
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第142集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2007. 3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀 5953
遺跡名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ (IBK Ⅱ)
遺跡所在地	佐久市岩村田 1077-15、1077-8
遺跡番号	41
経度	139.48.29
緯度	36.16.33
調査期間	2006.8.14 ~ 2006.8.19 (現場) 2006.8.21 ~ 2007.3 (整理)
調査面積	63 m <sup>2</sup>
調査原因	集合住宅建築
種別	集落址
主な時代	古墳時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址1軒 (古墳時代) 遺物 土器 (弥生・古墳)、石製品 (古墳時代)、石鏃 (縄文時代?)
特記事項	



佐久市埋蔵文化財調査報告書 第142集  
**枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ**

2007年3月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056  
文化財課  
〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953  
TEL 0267-68-7321

印刷所 臼田活版株式会社